

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270101825		
法人名	株式会社ユニマツそよ風		
事業所名	大森台ケアセンターそよ風(すずらん)		
所在地	千葉県千葉市中央区大森町250-1		
自己評価作成日	25年2月14日	評価結果市町村受理日	平成25年4月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階		
訪問調査日	平成25年2月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

㈱ユニマツそよ風の「大丈夫 そよ風があるから」のスローガンをモットーに、尚且つ、地域に「大森台そよ風があるから大丈夫」といわれるようなセンター作りをしていきたいと思っております。御利用者様1人1人の状況に沿って対応し外出・外食も多く取り入れている。また外気浴・お散歩も日課になっており、生活にメリハリがつくように心掛けている。近隣の方々と挨拶を交わしたり野菜を頂いたりごく普通の近所付き合いをさせて頂いている。今後は散歩時にゴミ拾いなどを取り入れ地域貢献も出来たらと考えております。保育所とも運動会に見学したりセンターに立ち寄って頂いたりと交流がある。24時間の訪問看護と契約を結び、医療の強化を図る。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム独自に「希望を実現しよう」を理念に掲げ、職員間で共有しながら一丸となり取り組んでいる。日々の支援では、外出活動の充実に力を入れて取り組み、お花見や外食、テーマパークへの外出、いちご狩り等の外出行事のほか、利用者の意向や要望に応じ個別での外出などを通じ戸外活動の充実に取り組んでいる。職員の知識や技術の向上に向けては、認知症高齢者へのアプローチや介護技術等の研修を通じスキル向上を図っている。今年度途中より新センター長となり、認知症の理解を職員に深めていくと共に全職員で力を合わせ明るいホーム作りを目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	そよ風勲章をミーティング等で唱和し、職員全員でサービスの方向性を共有するようにしている。また、大森台では「希望を実現しよう」を掲げてサービス提供に取り組んでいる。	事業所独自の「希望を実現しよう」という理念と会社の「そよ風憲章」をミーティング等で唱和することによって、その理念を管理者と職員が共有していく体制を築いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園へのお誘いや、逆にセンターのクリスマス会に招待することもあり、交流を深めている。地域の住民の方には合う時には挨拶を交わしたり、野菜を頂くなどのお付き合いをしている。	自治会に加入し、お祭り等自治会行事への参加や近隣保育所のイベント(運動会、人形劇等)への参加、中学生福祉体験・短大生の実習の受け入れや2ヶ月に1回歌や踊りのボランティアを受け入れている。	地域との交流がより深まっていくように、ホームの取り組み等を積極的に地域に発信していく事を検討しており、様々な取り組みを通じて、交流がより深まっていく事に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の福祉体験、短大生の実習の受け入れを行い、認知症の啓発に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	センターでの行事の様子やサービス提供の状況、ヒヤリハットなどの課題を報告して話し合いを行い、御家族様に質疑応答して頂くようにしている。	会議は2カ月に一度開催し、地域包括支援センター、自治会長、民生委員、家族の参加を受け、サービスの状況や行事、研修、人事異動等について報告し、話し合いを行い、サービス向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の時に民生委員やあんしんケアセンターの職員に参加にて情報提供を行い、意見を頂いて連携を行っている。	市との連携では、事故報告等の提出時に助言を頂くほか、地域包括支援センターや民生委員の協力を得てケアサービスの取り組みを積極的に伝え、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の廃止についての勉強会を行い、職員の周知に取り組んでいる。一階と二階を自由に往来できるように配慮している。	「身体拘束廃止、高齢者虐待防止委員会」をリーダーで構成し、身体拘束の廃止、高齢者虐待の防止の研修(3カ月に1回)を実施している。現状、身体拘束につながる事例は発生していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	千葉県高齢者権利擁護・身体拘束兵士研修の参加を促している。		

大森台ケアセンターそよ風(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成見後見人制度の研修に参加する機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には書面を読み上げるようにして、十分な時間を取るよう配慮している。不安や疑問点を伺い、きちんと説明するように対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の面会や電話、運営推進会議などにて出された要望等はミーティングで話し合い、反映するようにしている。	家族からの意向や要望については面会時のほか、ケアプラン検討時の担当者会議や運営推進会議等で来所された際には、個別で話し合いの場を設け、それらを会議等で吟味の上、意見や要望を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個々の職員と管理者は、定期的に面会をする機会を設けている。また、全体でのミーティングや勉強会などで意見を話し合うことができる。	運営に関する職員の意見や提案を聞く機会として個人面談(半年に1回)を設けている。そのほかミーティングでの意見交換やスタッフ親睦会を実施することによって意見を収集し、それを反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を行い、実績の評価をしている。職員とは個別で面談を行い、勤務の状況を把握するように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社内の研修や外部での研修に参加できるように働きかけている。受講者は研修報告書を記入して、閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他センターとミーティングや勉強会、交流会などの機会があり、親睦を深める取り組みをしている。		

大森台ケアセンターそよ風(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人様が不安な気持ちや困っている出来事を傾聴して信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様の要望や想いを受け止め、丁寧に話を聞くように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人様と御家族様のそれぞれのニーズを伺い、必要な状況に応じて訪問診療や訪問看護、リハビリ等のサービスの導入に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として御利用者様の経験や知恵を敬っている。生活場面において得意なことを助け合いながら行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様が来所された場合には、職員から御利用者様の様子や気付いた点を伝えていく。担当者会議への参加を促し、協力関係を気付くように心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの知人が電話で連絡されることや来訪されてきた場合には、交流ができるように環境を整えている。	行きつけの美容院へ通ったり、友人の面会や電話、手紙等でこれまでの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者様同士の関係が円滑になるように、職員が間に入り、支援している。レクリエーションや散歩の時間を共有し、関係の良好に努めている		

大森台ケアセンターそよ風(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用契約が終了しても様子を伺いに面会に行っている。また、何か困った場合などに連絡をして頂き、相談できる体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中で御利用者様の会話や表情などから意向を把握するようにしている。把握が困難な方は、御家族様から情報を伺うようにしている。	日頃の会話や表情から一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、また家族等の協力を仰ぎその把握に努めている。困難な場合は、家族に相談の上、ご利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センターへ入居する以前の担当ケアマネや御家族様などからこれまでの生活歴を伺い、情報の収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック表や食事量、排泄チェックなどを記録して、生活リズムに関する記録を行い、個々に合ったライフスタイルの支援をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人様、御家族様、職員、場合によっては病院関係者等を交えて担当者会議を開催している。会議を踏まえてケアプランを作成して実施している。	利用者の課題や状況をアセスメントにおいて収集し、担当者会議において家族、職員の意見を収集しケアプランに反映している。ケアプランで掲げた目標における利用者の満足度等についてはモニタリングの中で確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が気づいたことや状態変化は個々にケース記録を記入している。介護計画、御家族様へ日々の様子を伝えることや病院のドクターへ状況を提供するために使われている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御利用者様のニーズに合わせて車での外出や外食を行っている。必要な場合には、福祉用具の訪問販売や訪問看護、訪問リハビリなど他職種連携して対応している。		

大森台ケアセンターそよ風(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティアや習字の先生に来て頂いている。自治会に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医には、御本人様と御家族様へ受診に行かれています。場合によっては、ドクターと情報交換をするために情報提供書やノートに記入してやり取りをしている。	受診は本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を家族の協力を得ながら築き、適切な医療を受けられるようにしている。また提携医療機関の往診(月2回)を構築しているほか、訪問看護(3事業所)と連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護が来所した時には、日頃の健康状態を伝えることや体調変化に対して相談にて助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中には、慣れない場所へのストレスを軽減することや混乱を少なくするために面会へ行くようにしている。病院の医師や看護師と情報交換して退院に向けた相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の看取りについて御本人様や御家族様がどのような意向であるか傾聴している。センターでの終末期の看取りに関しての対応を話すようにしている。	重度化した場合や終末期のあり方について、契約段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明している。重度化を迎えた際には、医師や家族と共に今後の方針を検討し、本人本位の支援が図ることが出来るように取り組んでいる。	ホームでは、「重度化した場合の対応、看取り対応に関する指針」の基づき、説明を行っているが、説明した際の同意書について全利用者分揃っているか再度確認が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署で実施している救命救急講座を職員が受講している。事務所に緊急時のマニュアルや病院の連絡先を掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練の計画書を作成して実施している。水消火器や火災報知器等は、火災設備の点検業者が来たときに使用して訓練をしている。	防災訓練については年2回実施しており、地震を想定した避難訓練のほか消防設備に関しても定期的に点検している。また災害用備蓄品として、水、カンパン・缶詰・レトルト食品、ヘルメット、防災頭巾を準備している。	地域の協力体制の構築の強化や災害後において、ご家族に利用者の安否をどのように報告していくか、具体的な連絡体制の構築が望まれる。

大森台ケアセンターそよ風(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	御利用者様の人格を尊重し、敬語や名前は「〇〇さん」と呼び、言葉遣いや対応に気を付けている。	接遇マナー研修を実施し、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや居室への出入りに配慮している。万一、不適切な言葉かけや接遇を見かけた管理者や職員はその都度注意することを励行している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物の選択や好きな食べ物をお聞きし、献立に取り入れるようにしている。意思表示の困難な方は、目線などの表情を読み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは計画されているが、御利用者様の意思を確認することや希望に合わせた対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立されている方は、その日の好みの服を選んで着用されている。介助の必要な方は、職員が髪型や、髭、服装などの整容に気を遣い、御自分で出来るところはして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルの上を付近で拭く、お盆を並べる、盛り付けして頂くなどは、御利用者様に声かけをして職員と一緒にやっている。	利用者一人ひとりが出来る範囲で協力しながら、職員と一緒に準備や食事を楽しむことができる様に支援している。メニューは事業所で作り、それに合わせて食材を発注している。ソフト色の提供もあるがペーストでも食材の形が残る様に配慮し、ご利用者の好みに合わせて調理している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	御利用者様の状態に応じて、常食、刻み食、ミキサー食、おかゆで対応している。水分摂取が難しい方には、トロミ粉を混ぜたり、ゼリー飲料を召し上がられている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをされている。ここに合わせて、入れ歯洗浄、歯ブラシ、歯ブラシ用ティッシュを使用している。希望される方は、訪問歯科による定期往診を受けられている。		

大森台ケアセンターそよ風(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に一人一人の状況を記録して、トイレの習慣を把握している。トイレまでは、なるべく歩行にて誘導し、トイレ内での排泄の自立支援を行っている。	一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を排泄表によりチェックし、声かけによりトイレに誘導し、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表をもとに、便秘の方には水分を摂ることや食物繊維の多いものを提供している。また、毎日体操をすることや晴れた日には散歩に行くように心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、毎日入る体制を整えている。入浴拒否や午後のバイタルで体調の優れない方は、無理に入らないように支援している。	入浴に関しては、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、1日置きに入浴できるように支援しているほか、入浴中は職員が介助につき、安全性にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜が逆転しないように気をつけながら、疲れている場合や休みたい時には、居室やフロアにてゆっくりと休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師から個別の薬表をもらい、ファイルにまとめて職員が薬の把握ができるようにしている。薬の変更は、往診記録や申し送りに記入し、服用後の変化はケース記録に書くようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御本人様の希望にそって、レクリエーションや掃除、散歩、食事の準備などに参加して頂いている。希望例として、本の好きな方には、毎月「文藝春秋」を購入して読書されている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせて「イチゴ狩り」「イルミネーション鑑賞」「こいのぼり」を見に行かれる。個別で外食や買い物等の希望に応じて外出している。保育園の行事に誘われた時も伺うようにしている。	天候のよい日には、ホーム周辺の散歩や玄関前で外気浴を行うほか、お花見や外食、テーマパークへの外出、いちご狩り等外出計画を企画し、定期的に戸外に出かける事が出来るように支援している。	

大森台ケアセンターそよ風(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を居室で管理されている方もいらっしゃる。希望により、金庫で預かることもあるが、御本人様の自由に使用して大丈夫なように御家族様に話してある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を自由にかけられるようにしている。手紙でのやり取りも可能になっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースの照明の明るさや音、室温、加湿、などには気を使っている。写真や植物、書道などを展示して生活感のある過ごしやすい空間になるように配慮している。	共用の空間は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮されており、行事や季節に合わせて装飾したり、掲示をして生活感や季節感を採り入れてゆったりと居心地よく過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには好きな場所に座れるように椅子やソファ、リクライニングチェアを設置している。玄関前にはベンチを置いて一階の御利用者様と交流しやすいようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、囲碁や布団、タンスなど使い慣れた物や馴染みのある物を置いてある。また、家族の写真や昔の写真を居室に飾っている。	居室は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れた家具や好みのものを持参いただき、利用者が居心地よく過ごせるように職員が整理整頓に努めるなど支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センター内には、手すりの設置やバリアフリーになっている。居室前には、表札や部屋のドアには室名が書いてある。		